

東京都小中学校環境教育研究会会報 **東京の青い空** 第63号

会 長 藤 森 克 彦 品川区立第三日野小学校 TEL 03-3441-7780

事務局長 阿 閉 暢 子 多摩市立愛和小学校 TEL 042-374-9881

HP <http://kankyokyoiku.jp>**取り組みの成果は何なのか**

会長 藤 森 克 彦

先日11月30日、府中市立武蔵台小学校にて第50回全国小中学校環境教育研究大会（東京大会）及び第54回東京都小中学校環境教育研究発表会に、会場校の保護者・地域の方を含めおよそ300名の方にご参加をいただきました。お蔭様で盛況のうちに終えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、本研究会ではこれまで、持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成するために必要な資質・能力、態度を身に付ける学習方法について研究し、重要となる点を明らかにしながら普及啓発を進めてきました。

昨年度取り組んできた授業プラン「2100年の天気予報」は、どこの学校においても総合的な学習の時間の中で環境に関する単元として活用できるよう開発し、研究員の所属校を中心に実践を広げてきました。今年度はさらに、教員対象の意識調査から明らかになったESDや問題解決学習に対する苦手意識を解消すべく、誰でも取り組みやすくなるよう工夫を加えてきました。その一端を先の研究大会にて、授業公開と基調提案として報告させていただいたところです。

今後も、研究会メンバーの独りよがりや自己満足に留まることなく、どこの地域でもどんな先生方でも実践できる汎用性のある授業研究を進めていきたいと思っております。

ところで、我々は実践している授業の場面では児童生徒に対する教育評価に加え、授業研究としての内容はどうだったのかということについてその都度検証しているところですが、今

までESDとか環境教育の取り組みの成果は出ていると言えるでしょうか。当然、成果としては短期的なものもあれば長期的に見ていかなければならないものもあるでしょう。教育現場の教員による実践報告会などでは、学習後に児童生徒の意識や行動が変わってきたという話をよく聞きます。もしかしたら、教育なんだからやらないよりやった方が効果は出ているはずだ、という感覚に浸っているだけかもしれません。

だいぶ前の話になりますが、以前私が勤務していた学校の道徳授業地区公開講座で、地域・保護者・教員らによる協議会において「道徳の授業による成果は出ているか」をテーマに話し合ったことがありました。きまりを守るようになった、挨拶する子が増えた、友達に優しくなったなど肯定的な声がたくさん聞かれましたが、どれも主観的で結果ありきの感は否めませんでした。そこで、会も終わりに近づいたとき、一人のお母さんが手を挙げました。「子どもたちが楽しく授業を受けていて、またやりたい、こんなこともしてみたい、という姿こそが成果じゃないですか」「そういう授業だったら絶対に力はついていると思います」との話に、全員から拍手が沸きあがり会を閉じました。

ESDも環境教育も、その成果が出るのは何年もあとのことかもしれません。でも学校現場で大事なことは「いいと思ったことはやってみる」、そして「目の前の子どもたちはどうなのか」ということをしっかり見ていくことだと思います。

平成30年度東京都小中学校環境教育研究会総会報告

平成30年6月14日(木)、品川区立第三日野小学校において東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。議事として、平成29年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、平成30年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。また、総会後は、公益社団法人廃棄物・3R研究財団 調査部長 藤浪 博 様「環境保全に向けた行動力の育成 ～E S D観点から～」と題してご講演をいただきました。

◆平成29年度事業報告

- 1 平成29年度総会6月12日(月)
 - 品川区立第三日野小学校
- 2 研究部の活動の充実
 - ・動物園研修会(6月24日) 上野動物園
 - ・地球温暖化防止セミナー(8月1日)
 - 品川区立第三日野小学校
 - ・3R研修会(10月7日)
 - 板橋エコポリスセンター
 - ・授業実践と事例研究
 - ・現地研修会
 - 自然観察会…都立井の頭公園・文化園(1月27日)
 - 野鳥観察会…上野の森(2月10日)
- 3 全国小中学校環境教育研究会との連携
 - (1) 第49回全国小中学校環境教育研究大会参加
 - 平成29年12月8日(金)
 - 静岡県菊川市立菊川西中学校
 - 校長：森田 昌浩
 - (2) エネルギー研修会 施設見学会
 - 平成29年7月28日(木)

- 4 第53回東京都小中学校環境教育研究会発表会 平成29年2月13日(火)
 - 中野区立鷺宮小学校
 - 校長：渡島 郁弘

- 5 研究集録第28集の発行

- 6 機関誌「東京の青い空」
 - No.61号～No.62号発行

◆平成29年度決算報告

1. 収入

項目	予算額	決算額	適用
繰越金	512,534	512,534	
分担金	870,000	865,300	
研究奨励費	280,000	298,600	都教職員研修センター
研究助成金	250,000	50,000	日本教育公務員弘済会
利子	0	8	2回分
計	1,912,534	1,726,442	

2. 支出

項目	予算額	決算額	適用
総会費	30,000	20,000	総会要綱印刷代
会場費	60,000	30,000	研究会会場費
事務費	30,000	2,654	事務経費
研究費	500,000	290,920	集録、資料、学会費
講演会費	200,000	93,000	講師謝礼
見学費	50,000	34,000	交通費補助
印刷代	250,000	107,869	機関誌代
通信費	35,000	19,338	送料代
全国大会費	650,000	450,000	全国総会、運営補助
発表会費	100,000	100,000	運営費
予備費	7,534	0	
計	1,912,534	1,147,781	

3. 会計監査報告

上記の決算について監査により相違ないことを認めます。

平成30年6月14日

会計監査

東京都教職員研修センター 國分 重隆
元江戸川区立西小岩小学校長 未吉 潤一

◆平成30年度事業計画

- 1 平成30年度総会 6月14日(木)
品川区立第三日野小学校
- 2 研究部の活動の充実
 - ・研修会
(地球温暖化防止セミナー、発電所見学)
 - ・授業実践と事例報告
 - ・現地研修(自然観察、野鳥観察、動物園)
- 3 全国小中学校環境教育研究会と連携した実践的研究の推進
 - (1) 第50回全国小中学校環境教育研究大会
第54回東京都環境教育研究会発表会
平成30年11月30日(金)
府中市立武蔵台小学校
(校長:野澤 由美)
 - (2) エネルギー研修会 施設見学会
平成30年7月27日(金)
東京ガス根岸工場・田町スマエネパーク
- 5 研究集録第29集の発行
- 6 機関誌「東京の青い空」No.63~No.64 発行

◆平成29年度予算

1. 収入

項目	予算額	適用
繰越金	578,661	平成29年度繰越金
分担金	850,000	分担金1校1,000円、900円
研究奨励費	350,000	都教職員研修センター
利息	0	
計	1,778,661	

2. 支出

項目	予算額	適用
総会費	40,000	総会要項印刷等
会場費	70,000	定例役員会、研究部会、研究員発表会費
事務費	40,000	事務経費

研究費	500,000	集録作成、研究資料費、環境教育学会会費、夏季研修費
講演会費	200,000	講師謝礼
見学費	80,000	研修会見学費、交通費補助
印刷・広報費	250,000	「東京の青い空」No.63~64 ホームページ更新料
通信費	35,000	通信 送料等
全国大会費	450,000	全国大会紀要作成補助 運営補助等
発表会費	100,000	都発表会運営費
予備費	13,661	
計	1,778,661	

◆平成30年度役員

役職	氏名	学校名	役職
顧問	竹田雄二郎	青梅市教育相談所	所長
会長	藤森克彦	品川区立第三日野小	校長
副会長	棚橋 乾	多摩市立連光寺小	校長
	野澤由美	府中市立武蔵台小	校長
事務局長	阿閉暢子	多摩市立愛和小	校長
事務局次長	伊勢明子	杉並区立浜田山小	校長
	山口京子	杉並区立杉並第十小	校長
	鯨坂映子	町田市立南成瀬小	校長
	箱崎高之	府中市立白糸台小	副長
研究・広報部長	鈴木 元	町田市立南成瀬小	副長
研究・広報部副部長	石塚裕幸	足立区立千寿本町小	副長
	福井みどり	新宿区立戸山小	副長
会計部長	佐々木智津子	中野区立鷲宮小	副長
会計部副部長	邊見公子	杉並区立桃井第三小	校長
会計監査	國分重隆	東京都教職員センター	非常勤
	末吉潤一	元江戸川区立西小岩小	元校長
OB役員	富田 広	多摩教育事務所指導課	指導員
	杉本茂雄	前 中央区立阪本小学校	前役員
	宮原 元	品川区教育委員会学校地域連携課	コーディネータ
	根本美恵子	前 青梅市立第五小学校	前校長

平成30年度 東京都小中学校環境教育研究会 地区理事

地区	所属小学校名	理事氏名	所属中学校名	理事氏名
千代田区				
中央区	佃島小	三木 滋		
港区	芝小	齋藤 幸之介		
新宿区	花園小	大久保 旬子		
文京区	金富小	林 禎久		
台東区	東浅草小	伊藤 悌夫	桜橋中	根岸 秀夫
墨田区	東吾嬬小	渡邊 圭三		
江東区	第六砂町小	加瀬 幸司	辰巳中	遠藤 淳
品川区	第三日野小	藤森 克彦	第三日野小	藤森 克彦
目黒区		板木 孝悦		
大田区	馬込第二小	雨笠 常宣		
世田谷区	笹原小	後藤 真司	桜丘中	西郷 孝彦
渋谷区	千駄谷小	長田 眞理子		
中野区				
杉並区	高井戸第三小	馬場 章弘	富士見丘中	横田 和長
豊島区	清和小	坂本 晃治		
北区				
荒川区	尾久宮前小	丸山 稔	第七中	近江 貞之
板橋区			高島第一中	関 実
練馬区				
足立区			加賀中	遠藤 映悟
葛飾区	東水元小	岡本 勝宏		
江戸川区	二之江小	大須賀 慎一	小岩第五中	石井 千歳
江王子市	宮上小	宇都宮 晃	みなみ野中	石代 俊則
立川市	大山小	猿渡 厚史	立川第五中	小沼 孝行
武蔵野市	大野田小	藤橋 義之		
三鷹市	連雀学園第六小	山口 菜穂子		
府中市	吹上小	富田 清	泉中	小林 良孝
昭島市	拝島第三小	石川 博朗		
調布市				
町田市				
小金井市				
小平市	小平第四小	石崎 純一	小平第二中	阿部 善雄
日野市	潤徳小	竹山 弘志	第三中	宮原 延郎
東村山市	久米川小	藤沼 浄子	東村山第四中	海老塚 俊一
国分寺市	第位置小	吉田 権		
国立市	国立第七小	大山 紀子		
福生市				
狛江市	緑野小	川崎 貴志		
東大和市	第四小	宇賀神 礼子		
清瀬市	清瀬第八小	佐藤 門太		
東久留米市			久米川中	齋藤 実
多摩市	愛和小	阿閉 暢子		
稲城市	城山小	佐藤 英樹		
羽村市	栄小	小山 夏樹		
青梅市			東中	大澤 秀吉
武蔵村山市	第九小	五十嵐 誠一		
あきる野市				
西東京市	碧山小	伊藤 正明		
瑞穂町	瑞穂第五小	日野 元信		
日の出町	大久野小	南 正紀		
桧原村				
奥多摩町				
大島				
新島				
神津島				
三宅				
御蔵島				
八丈島				
青ヶ島				
小笠原村				

第 50 回 全国小中学校環境教育研究大会（東京大会） 第 54 回東京都小中学校環境教育研究発表会

日 時	平成 30 年 11 月 30 日（金） 10 時 00 分～16 時 30 分		
会 場	府中市立武蔵台小学校		
主 催	全国小中学校環境教育研究会 東京都小中学校環境教育研究会		
後 援	文部科学省	環境省	東京都教育委員会
	府中市教育委員会	全国連合小学校長会	全日本中学校長会
	東京都公立校長会	東京都中学校長会	府中市立小学校長会
	府中市中学校長会	日本教育公務員弘済会東京支部	
	日本環境学会	ESD 活動支援センター	関東 ESD 活動支援センター
	ESD 推進フォーラム		

＜基調講演・口頭発表 1＞

持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～環境教育によって育む学力と環境保全意欲・2100年の食品ロス～

会 長 藤森 克彦

研究部長 関口 寿也

1 研究主題設定の理由

気候変動の影響により世界各地で発生している異常気象やエネルギー問題、貧困や飢餓など、人類がかつて経験したことのない環境問題が地球規模的に生じている。国連は、2015年「持続可能な開発目標（SDGs）」を掲げた。その13番目には、「気候変動に具体的な対策を」と記され、地球温暖化をはじめとする環境問題は、各国政府やNGO、企業で、様々な広がりを見せている。

例えば、大手企業や金融機関が相次いで、低炭素型投資へシフトする“Divestment(ダイベストメント)”の動きが進んでいる。ESG投資(Environment Social Governance)と言われ、ESGの観点が高い企業は、大きなリスクを抱えた企業であり、長期的な成長がのぞめない企業であるとさえ言われている。

自然エネルギー(再生可能エネルギー)の推進は、地球環境問題を語る上では大きな鍵となる。すでに九州電力管内では全ての電力を太陽光や風力等の自然エネルギーで賄える規模となっている。また、これまで余剰であった原子力発電の夜間電力により揚水式水力発電所の上部調整池に水を送っていたが、現在は原子力発電の停止と太陽光発電の加速により、余剰電力が昼間に集中し、日中に上部調整池へのポンプ稼働している。このように、SDGsや地球環境問題を機として、世界で急速なパラダイムシフトが始まっている。

新学習指導要領の前文には「持続可能な社会の作り手となることができるようになる」と記されている。新しい教育課程には、この先の世界をどうしたいのか、そのために、どのような人間を育てたいのか、送り出すのか、というビジョンが欠かせない。その実現のための中心となる学習活動は「総合的な学習の時間」である。2015年に開始されたGAP(グローバルアクションプログラム)やホールスクールアプローチに基づき、各教科、領域との横断的な関連をもって学びを進めるためのESDカレンダーなど、未来を見据えた際に「総合的な学習の時間」の果たすべき役割はますます大きくなっている。そこでは単なる知識だけでなく、よりよい未来を創造する人間の育成に向けた資質・能力の向上が求められている。ESDや問題解決学習といった学習活動が、教員に難解さや不安を招いている。今後は、指導する教員自身のパラダイムシフトも不可欠なのである。

本研究会では、これまで持続可能な社会づくりに貢献できる人材育成のために、必要な学力や環境保全意欲とは何か、その能力・態度を育成するための学習方法について検討し、重要となる点を明らかにしてきた。また、持続可能な社会づくりのための環境教育を推進するために、その理念や指導法などについて普及啓発の取組を進めてきた。昨年度まで取り組んだ授業プラン「2100年の天気予報」は、総合的な学習の時間の環境に関する単元内容を始めるきっかけとして取り組むものであった。今年度は、先に述べたE S Dや問題解決学習に対して教員が抱く難解さや不安の一つの光明となるべく、具体的にどのような年間指導計画が実行できるかを普遍的に探り、立案・実践してみることにした。これまで本研究会が取り組んできたE S Dの授業概念を盛り込み、これからの世界を生きるための児童・生徒の育成を図るべく、どの地域でも実現ができる実践的な年間指導計画を作成した。環境教育とは何か、E S Dとは何か、道筋の見えない学校現場に参考となれば幸いである。

2 研究の方法

- (1) 役員定例会で理論構成を行う。
- (2) 教員のアンケート調査をもとに、「総合的な学習の時間」への意識について推し量る。
- (3) 全国小中学校環境教育研究会で作成した「新しい環境教育」で示す児童・生徒の3つの能力・態度をもとに、本会研究部で年間指導計画・授業プランを創造する。
- (4) 全国小中学校環境教育研究会、外部機関と連携し、研究員各校において、指導実践を深める。
- (5) 全国小中学校環境教育研究大会において、研究発表を行う。

3 研究過程

- (1) 学校現場でのE S D推進の必要性を再確認
- (2) 各教科・領域で実践可能な「ちょこっとE S D」の検討
- (3) E S D(環境単元)の実施づらさや教員のE S Dの必要性に関する意識調査
- (4) 「2100年の天気予報」を単元のきっかけとした、「食品ロス」を課題とした年間指導計画例の作成
- (5) 研究会員の学校における授業実践(一部)
- (6) ポートフォリオ、イメージマップによる授業検証

4 第5学年 「総合的な学習の時間」年間指導計画例(一部抜粋)

学期	テーマ	活動内容	単元課程
1	食品ロスってなに？	①温暖化による2100年の天気予報について学ぶ ②くらしの中からもったいないを探そう ③食べ物のもったいないを知ろう ④もったいないおにごっこ(食品ロスについて考える) ⑤食品ロスの自分の課題を見つよう	つかむ つかむ 調べる つかむ 調べる、まとめる
2	私たちを取り巻く食品ロス	①生産・加工過程の食品ロスを調べよう ②豆腐づくり ③流通・消費過程の食品ロスを調べよう ④発信する ～生産地との交流など～ ④食品ロスを減らすために具体的に何が出来るか考え、実践しよう	調べる、まとめる つかむ 調べる、まとめる 発信する 調べる 行動する
3	2100年に向けてできること ～食品ロスのない世界～	①まとめ、発信する ～生産地との交流②～ ②振り返り ③発信する	まとめる、発信する 調べる、まとめる 発信する